

(政務活動費用)

(様式1)

出張報告書

令和7年11月26日

釧路市議会議長 畑中 優周 様

会派名 創志会

代表者名 大越 拓也



次のとおり、政務活動費による出張を終えましたので報告します。

受命者	大越 拓也、藤井 若菜
出張先	台湾台北市、花蓮市
期間	令和7年11月10日～令和7年11月14日（5日間）
用務	台湾視察
調査（研修） 結果等の概要	別紙参照
備考	

注) 1 資料等がある場合、添付すること。資料は、事務局経由で会派へ返却するので、本出張報告書（原本）とともに会派で保管すること。

2 調査結果等の概要は、別紙による記載も認める。

令和7年度 釧路市・釧路北陽高等学校 台湾視察 総合報告書

1. 視察概要

- 期間:
 - 市公式訪問団: 令和7年11月10日(月)～11月14日(金)
 - 北陽高校訪問団: 令和7年11月9日(日)～11月13日(木)
- 訪問先: 台湾(台北市、新北市、花蓮市 ※一部オンライン)
- 訪問団構成:
 - 市議会: 日台友好議員連盟 9名
 - 市役所: 市長、教育長、学校教育部長、観光振興担当部長、総合政策部長、市民協働課職員、観光課職員
 - 学校側: 釧路北陽高等学校 2年次生 190名、引率教員 10名(校長含む)

【気象状況と日程背景】

- 日程の経緯: 北陽高校の修学旅行は、昨年度も台風の影響を受けた教訓から、本年度は実施時期をあえて2週間遅らせて設定していた。
- 当日の状況: しかしながら、当日は「11月として統計史上初めて4つの台風が同時発生する」という極めて異例の気象状況に見舞われた。この影響により、市長ら本隊の花蓮現地入りは断念し、台北でのオンライン交流および議員連盟による代理視察へと計画を変更した。

2. 訪問都市・提携施設の概要と釧路市との比較

視察先である台北市および各施設は、釧路市とは異なる特徴や規模感を有しており、相互補完的な交流の意義が確認された。

(1) 都市規模比較：台北市 vs 釧路市

台北市は面積が釧路市の約5分の1である一方、人口は16倍以上という「高密度な都市」である。

項目	台北市 (Taipei City)	釧路市 (Kushiro City)	特徴・比較
人口	約 250 万人	約 15.6 万人	台北市は釧路市の約 16 倍。台湾の政治・経済の中心地である。
面積	約 271.8 km ²	1,363.3 km ²	釧路市は台北市の約 5 倍の広さ。台北は盆地で可住地が限られている。
特徴	経済・交通ハブ	自然・港湾都市	台北は MRT (地下鉄) が発達した都市型社会である。

項目	台北市立動物園	釧路市動物園	特徴・比較
			「アジア最大級」の規模を誇る。
環境	亜熱帯・熱帯雨林	冷涼・湿原隣接	異なる気候特性を活かした「生息域外保全」の補完関係にある。
主要種	パンダ、コアラ、センザンコウ	タンチョウ、シマフクロウ	台北はセンザンコウの人工飼育繁殖で世界的な実績を持つ。

(3) 提携校: 台北市私立景文高級中学

- 特色(実学重視の総合高校):
 - 普通科に加え、商業・情報処理・広告デザイン・応用外国語などの専門学科を併設している。
 - 日本の専門学校に近い「選択授業(アニメ制作、第二外国語等)」が充実しており、資格取得を奨励している。この「生徒が自ら科目を選択する」カリキュラム体系が、単位制である北陽高校との親和性が高い点である。

3. 日程別 活動詳細報告

11月9日(日)～10日(月)【先行: 北陽高校】

- 北陽高校: 9日に台北入りし、10日は台北市立動物園の見学や文化体験を実施した。
- 九份での体験: 台風の影響を強く受け、九份散策中は「服が絞れるほど濡れた」との感想が出る猛烈な大雨に見舞われた。生徒たちは台湾特有の亜熱帯気候の厳しさを肌で感じる体験とした。

11月10日(日)【市長一行 台北到着】

- 移動: 釧路空港を出発し、羽田を経由して台北市(松山空港)へ到着した。

11月11日(月)【教育・環境・行政連携の強化】

(1) 09:00 景文高級中学 姉妹校協定調印式

- 提携校の特色: 前述の通り、景文高級中学は実学重視の教育を行っており、北陽高校との教育課程の親和性が高い。
- 式典の様子:
 - 釧路市立北陽高等学校と台北市の私立景文高級中学の間で、姉妹校協定が締結された。
 - 景文側の「国際交流授業」選択者は講堂に集結し(立ち見が出る盛況)、その他の生徒は各教室からオンライン参加するハイブリッド形式で実施された。
- 文化交流:
 - 景文側: 歓迎の歌唱とオカリナ合奏を披露。
 - 北陽側: 有志によるダンスと書道パフォーマンスで会場を魅了した。
- 記念品: 景文側より手作りの「切り紙飾り」、ペン、マグホルダーが贈呈された。
- 成果: 今後は姉妹校として、授業単位でのオンライン交流拡大や、相互交換留学の実施を確

認した。

(2) 11:15 台北市立動物園(保全協力)

- 視察: 釧路市から寄贈されたタンチョウの自然繁殖個体「哩鶴(リーホー)」やマリモ展示を視察した。

【基本情報: 台北市立動物園(Taipei Zoo)】アジア最大級の規模を誇る歴史ある動物園である。

- 総面積: 約165 ha(釧路市動物園の約3.5倍)
- 開園: 1914年(台湾最古)
- 特徴: 亜熱帯・熱帯雨林の気候を活かし、檻を使わない「生態展示」を行っている。
- 主要動物: ジャイアントパンダ、コアラに加え、世界初の人工繁殖に成功したセンザンコウなど。釧路(寒冷地・湿原)とは異なる環境下での「生息域外保全」のパートナーとして重要な役割を担っている。
- 協議内容(予算確保・推進スキームの確立): 今後5年間にわたるタンチョウの繁殖および保護プロジェクト(「新・5カ年計画」)の推進に向け、以下の具体的な予算確保スキームについて合意形成を図った。
 1. 教育局による行政バックアップ: 本プロジェクトは動物園単独ではなく、所管である台北市教育局が主体となって予算調整や進行管理を行うことを確認した。
 2. 資金調達の複線化(ハイブリッド方式):
 - 公的予算: 台北市としての経費捻出・予算措置の可能性を検討する。
 - 民間スポンサーシップ: 台湾に進出している日本企業や現地企業に対し、CSR(企業の社会的責任)活動の一環として協賛を募る「スポンサーシップ制度」の導入・開拓を行う。
 3. トップダウンによる推進: 会談した台北市副市長(元教育局長)より、本件を蔣万安(ジャン・ワンアン)台北市長へ直接報告し、市長のリーダーシップのもとで市を挙げて協力体制を築く旨の確約を得た。



以前は手前のロープがなかった。しかし、寄贈したピックは人口飼育であるため人間に慣れている。そのため、来場者がいると寄ってくる修正があり、クチバシで攻撃してしまう。そのため、ロープを設けた。釧路で見られるタンチョウの多くは、野生であるため特徴自体が意外であった。タンチョウのおりは広々とした敷地に、ミストが常時炊かれ、日よけのネットが設置されている。2011年の寄贈から、ペアリング10年が経過した2022年、ようやく今回子供のリーホーが生まれた。



2019年に貸与されている阿寒湖のまりも。数100万円の予算をかけて、阿寒湖の湖底と同じ環境を作り、円形を維持している。地元の子供達に大人気で、視察中も釘付けになる子供が続出していた。美しいまりものビロードがよく観察できる。

(3) 14:30 台北市役所 表敬訪問

- 会談: 台北市副市長（元教育局長）より、北陽高校との提携や動物園での協力を感謝が示され、2026年「台北ランタンフェスティバル（台北灯節）」への招待を受けた。
- 要望: タンチョウの繁殖および保護プロジェクト（「新・5カ年計画」）の推進
 - 公的予算: 台北市としての経費捻出・予算措置の可能性を検討する
 - 民間スポンサーシップ: 台湾に進出している日本企業や現地企業に対し、CSR（企業の社会的責任）活動の一環として協賛を募る「スポンサーシップ制度」の導入・開拓を行う。

以上、2点を要望し、主に公的予算について可能か市長と検討する旨の回答を得た。

● 【基本情報: 台北市 (Taipei City)】 台湾の政治・経済・文化の中心地であり、釧路市とは対照的な「高密度都市」である。

- 人口: 約 250 万人（釧路市の約 16 倍）
- 面積: 約 271.8 km²（釧路市の約 5 分の 1）
- 特徴: 盆地地形に人口が集中しており、MRT（地下鉄）網が発達した車社会ではない都市構造を持つ。ITF（国際旅行博）等の大規模イベントも頻繁に開催されるアジア有数のハブ都市である。

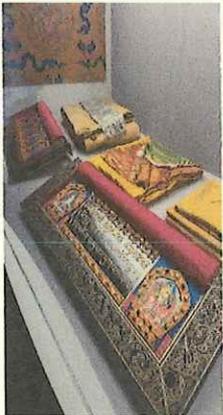
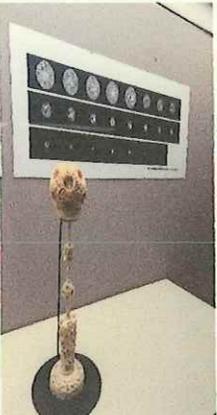
(4) 18:00 台湾日本関係協会 夕食懇親会

- **スピーチ:** 元札幌分処長の李氏より、2011年のタンチョウ寄贈時に「鳥インフルエンザ全滅リスクの分散」を名目に反対派を説得した秘話が語られた。
- **要望:** かつてトランスアジア航空が運航していた釧路—台北直行便の復活を望む声が強くなった。

11月12日（火）【台風対応とオンライン交流】

10:00 国立故宮博物院 視察

- **内容:** 台北市士林区にある国立故宮博物院を視察し、中国歴代の文物を鑑賞した。
- 【基本情報：国立故宮博物院 (National Palace Museum)】**
- **規模:** ルーヴル美術館（仏）、メトロポリタン美術館（米）、エルミタージュ美術館（露）と並び、**「世界四大博物館」**の一つに数えられる世界屈指の博物館である。
 - **収蔵品:** 歴代中国皇帝のコレクションを中心に約**70**万点の至宝を収蔵している。これらはかつて北京の紫禁城（故宮）にあったものが、戦乱を避けて台湾へ移送されたものである。
 - **代表的展示:** ヒスイを白菜に見立てた**「翠玉白菜」や、天然石を豚の角煮に見立てた**「肉形石」****などが特に有名で、中華文化の精髓を今に伝えている。

				
<p>チベット仏教の「Ganjur」を書いた写本。金泥で書かれ、煩惱の数である108の箱に収められている。</p>	<p>直径117mmの球体に23層になって、それぞれ回転する象牙多層球。縁起物で層が多いほど良い</p>	<p>アステカ帝国から、テスカトリポカの神力が納められた運命を見通す魔法の水晶玉として贈られた。</p>	<p>清の雍正帝が父から「急ぎを戒め、耐え忍ぶことを用いよ」という言葉を刻んだ初勅。</p>	<p>清の時代に作られた、ジャスパーという天然石でできた豚の角煮。</p>

				
<p>通訳の声をグループごとに伝えられ、展示の説明を他言語で説明できる電子機器。有料で借りられる</p>	<p>博物館内の階段。知らなかったが、3階から1階へ見て回るのがセオリー。</p>	<p>玉盆を台座とし、花石で造景した作品で、波濤が重なり合い、エビが浮き沈みする中、鰲の頭上に威風堂々と立つ魁星の姿。</p>	<p>聖なる王の統治に不可欠な属性とみなされる法輪、象、馬、宝珠、王妃、大臣、将軍の七宝を模した工芸品</p>	<p>17～18世紀の北インド・ムガル帝国とトルコ・オスマン帝国の精緻な工芸。イスラム玉器。</p>

16:00 花蓮市とのオンライン交流（場所：日本台湾交流協会）

- 市訪問団（本隊）：
 - 状況: 台風による交通寸断のため現地入りを断念し、Web会議を実施した。
 - 交流内容: 12月の花蓮市長来釧時の再会を約束した。また、北海道の雪と台湾の台風、食文化（熊肉・鹿肉、台湾のバナナ・空芯菜など）について和やかに意見交換を行った。

11月13日（水）【防災実務視察（議員連盟）】

市長ら本隊が台北に残る中、日台友好議員連盟（9名）が代表して花蓮市へ向かった。

- 花蓮市 防災視察（テーマ：0403 地震への対応）
 - 避難所の劇的改善: 2018年の教訓を活かした「福慧隔屏（折りたたみ式個室テント）」の導入により、プライバシーが確保されている現場を確認した。
 - 官民連携（NGO）: 慈濟基金会等との協定により、発災直後にテント、食事、医療、マッサージ、児童ケアが即座に提供されるシステムを学んだ。
 - 復興支援: 危険建物（赤紙）の公費解体ルール（公共安全のため行政負担）や、要配慮者のホテル移送スキームについて詳細なレクチャーを受けた。

11月14日（木）【帰国】

- 全日程を終了し、釧路へ帰着した。

4. 総括

本視察は、「統計史上初の11月4台風発生」という逆境の中で行われたが、その分、平時以上の深い成果を得ることができた。

1. 次世代への投資: 景文高級中学（実学重視・選択制）との姉妹校提携により、北陽高校生が台湾の独自教育や文化に直接触れ、強固なパートナーシップを築いた。
2. 防災・危機管理の共有: 台風による行程変更自体が危機管理の実践となり、さらに議員連盟が持ち帰った花蓮の「避難所運営・NGO連携」のノウハウは、釧路市の防災施策に直結する重要な知見となった。
3. 多層的な交流: 都市規模や環境が異なる「台北市・台北動物園・故宮博物院」との交流を通じ、行政・教育・文化・観光の多面的な連携を確認した。特に動物園との連携においては、教育局を主体とした予算確保スキームや市長へのトップダウン報告が確約されるなど、12月の花蓮市長来訪や2026年のランタンフェス参加に向けた盤石な基盤が完成した。

【個人的な感想】

花蓮市の地震災害では、全ての建物を政府が修繕する。資金の多くは世界的な支援団体・慈済基金会によるもの。台湾は土地面積に対して多くの国民がいるため、一軒家がないよう。災害に見舞われた一般家屋に一軒家はなく、もっとも低くて4階建のマンションだという。テントなども支援団体によるものが多く、ほとんどの支援・資金がそこから提供される。1世帯ごとのテント体制などの充実した支援もそのため。2018年時点では日本でもよく見られる雑魚寝スタイルであり、2024年に是正されたわけである。以上から、日本の災害支援とは前提条件が大きく異なる。

台北動物園は茂みの合間から動物を見られるバイオーム展示であり、柵の代わりに大きな溝を作ることで柵のない展示を可能にしている。巨大な温室のような建物内に入口にのみ重いチェーンカーテンを採用し、鳥や猿が自由に見学者の通路も移動できる共生展示エリアもあった。広さを生かした素晴らしい動物園である。寄付をすると動物たちのワッペンをもらえる取り組みもよかった。まりもやタンチョウについては、土産があるかわからないが釧路の企業も輸出できる機会があるかもしれない。

故宮博物館は、他言語対応のスマホが配られるが、音声解説は長く、展示物は多く、広大。全てを見るには4時間かかるという。北陽高校の生徒たちも見学しているはずだが、ただ見て終わっていないか心配である。我々市議団も1時間しか見られないからとガイドをつけずに視察したが、短い時間しかないからこそガイドが必要だったと痛感した。途中他の日本人観光客もおり、ガイドの説明を立ち聞きしたが、博物館の中でこれだけは見ておいた方が良いものを優先しているようだった。北陽高校の生徒たちの修学旅行日程に故宮博物館が加わるのであれば、ぜひともガイドを雇う予算も確保してほしいもの。中国に関する工芸品だけでなく、知ること世界史にも造詣が深まるだろう。

台湾は簡単な英語さえ話せれば通じる場面も多い、翻訳アプリが発展したいま、非常に旅行しやすく安全な国であることは確かだ。その点においては、危機感のない日本人高校生の修学旅行先としては最適である。しかしながら、多くの生徒にとってはディズニーやUSJの方が旅行先として魅力的であり、その価値を真に理解できるものは現時点では少ないかもしれないと考える。今後の姉妹校締結を受けて、現在のクラス対クラスのオンライン交流ではなく、個人対個人のオンライン交流が可能となれば、修学旅行で実際に会うことは何よりの楽しみとなり、唯一の共通言語である英語への意欲も高まるだろう。ペンパルが世界的に普及した背景にあるように、海外の友人を作ることこそ国際理解への最短の道である。そうした意味でも北

陽高校の生徒には、好奇心を翼にオンライン交流で親交を深め、修学旅行で台湾本土の文化に触れて、環境の違いによって生まれる本当の多様性を肌で感じ取ってほしい。

藤井